

出身者と地元在住者の交流 第29回ふるさとゴルフ・第4回グラウンドゴルフ大会

本町出身者と地元在住者の交流を目的とする「第29回中種子ふるさと交流親善ゴルフ大会」と「第4回グラウンドゴルフ大会」が、10月12日にあり、参加者は互いに再会を喜び合い、プレーを楽しみました。

ゴルフは、種子島ゴルフリゾートで行われ、地元108人、出身者25人、計133人が参加。好プレーの続出に、大会は大いに盛り上がりました。

グラウンドゴルフは、太陽の里多目的広場で行われ、地元43人、出身者14人、計57人が参加しました。こちらも真剣なプレーの中にも、楽しい会話やホールインワンの達成に、大会は大いに湧きました。

また、夜は中央公民館で祝賀会が行われ、互いに健闘を讃え合う様子が見られました。

大会では地元への寄付金として、16万4千円が集まりました。



グラウンドゴルフ

優勝：増野 正利
2位：松原 徳幸
3位：三原 清吉

ゴルフ

優勝：春田 敏男
2位：古市 克人
3位：内門 雄二

シニア優勝：古市 克人
ベストグロス賞：奥田 美佐夫
レディス賞：馬場 さかえ

地域おこし協力隊通信 (No. 37) 中種子町受賞作のふるさとCMのテーマ

この度の審査員激励賞受賞に際し関係者の皆様に深く感謝いたします。

さて、今年は県内43市町村から32の市町村が参加。ちなみに中種子町の出品歴は第1回の2002年と第16回の2011年の2回。私が2017年に協力隊に就いてから毎年出品し3回となる。CMのテーマは「守りたいおもいで」祖父母や両親から、ふるさとのおもいでを受け継ぎ守ることは中種子町の未来を守るのだらうとイメージした。

3年の任期終了が迫り、ふと考えた。私には5歳(執筆時)の息子がいる。彼が成人して社会で活躍する頃に思いつく幼い頃のおもいでとは何だろうか。3年間過ごした京都や大阪なのだろうか？現在も生活している種子島だろうか？つい先日、妻が息子を連れて帰省した。実家や保育園などを訪れたが3歳を過ぎるまで彼はそこで生活していたにもかかわらず覚えていなかった。記憶するには幼すぎたのかもしれないが、彼のおもいでに残る場所とは種子島となる可能性は高い。皆さんの幼い頃のおもいでは何だろうか？私

のおもいでと言えば母の勤めている巨大ビルにある7台から8台のエレベーター。なぜか強烈に脳裏に残るひとつ。たくさん並んだ数字のボタンを適当に押し、止まった階を探索。たまに真っ暗な未入居の階に行き着くと怖くて目をつぶり、すぐに閉まるを押し別の数字を叩く。それって、おもいでとして、どうなのか。息子も同じような環境で育っていた。保育園にはエレベーターがあり、土がなく、屋上が運動場。町の小さな公園の砂場はたいがい封鎖されていた。

「国破れて山河あり」ということわざの様にふるさとの景色だけは本来あり続けるはず。ふるさとの山、川、そして海。大人になって、おもいでがよぎる時は、自然と戯れた無垢のこどもの心の波動をもう一度取り込んでいる。これは相当大切なことではないかと今回のCM制作で気づいた。大人になってからは無垢なおもいでをつくることは困難だ。子どもたちには、このどこにも負けない中種子町でおもいでになる空気感を増やして欲しい。それはふるさとを守ることにつながるはずである。

(山村)